

○ 単元「お米の大切さを伝えて、より多くのお米を食べてもらおう」

(光小学校)

1 単元指導計画

1-1 単元名 「お米の大切さを伝えて、より多くのお米を食べてもらおう

— 守ろう日本の心 — (全38時間)

担当者 福田 範子 後川 恵子 神原 香代

1-2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学年の児童の食生活を見たとき、朝食抜きの子や偏食ある子が多く、給食の食べ残しが目につく。飽食の時代にあつて、好きなものを好きなときに食べられる子どもたちは、食べ物大切さを実感することが少なく、それを作る人の苦労や思いに気を止めることは少ない。また、毎日の食事は、「自分の体をつくるのに十分なのか」といった栄養面まで考えている子はほとんどいない。

1学期から、社会科の学習の発展としてバケツや発泡スチロール容器で稲を育てる活動を行ってきた。「自分で作ったお米を食べたい。」そんな思いで、各自が家庭から適当な容器をもち寄り、土さがしからの活動が始まった。収穫までのあいだ、地域のボランティアの方をお呼びして稲の育て方に関するいろいろな話をお聞きした。児童の中には、初めて稲に触れる者も多く、稲の成長記録や毎日の水の管理などの世話は大変興味深い活動であり、意欲的にとりくむことができた。そして、迎えた長い夏休み。当番制で行った稲の世話であったが、真夏の水の管理は、思ったより大変で、水不足で枯れかかった稲もたくさんあった。手作業で行う稲の天火干し・脱穀・籾すり等、子どもたちは半年近くの一連の活動を通して、米作りの大変さを実感した。そして、日頃何気なく食べていた「米」に関心をもつようになってきている。

(2) 単元について

日本人は二千年以上前から米を作り、米を中心とする食文化を育ててきた。各地にいろいろな米の食べ方が発達し、しょうゆ、味噌、酒などの主な調味料や加工食品はほとんど米を原料としている。米に合うおかずもたくさん考え出され、ご飯プラスおかずで栄養のバランスもとりにやすいことが言われている。最近では、お米中心の日本食は、外国からも注目されている。しかし、日本人の食生活が和食から洋食へと変わりつつある現在、米の消費量は年々減少している。

子どもたちは、米の調査活動を通して、今まで何気なく食べてきたお米のよさを見直し、米中心の食生活がいかにバランスのとれた食事であるかということに気づくであろう。また、1つ1つの食品にこめられた作り手の苦労や願いを感じることができるであろう。さらに、伝統的なお米料理や行事食、各地に伝わる郷土料理などから日本独特の食文化に触れ、それらのもつよさや今日まで受け継がれてきた意味を知ることにより、日本人が大切にしてきた米に寄せる思いを感じることができるであろうと考える。

そこで、本校の「総合的な学習の内容系列表」の項目「自分の成長・いのち・健康」と「国際理解」に挙げられている「自分の体や食生活をみつめ、健康・命の大切

さを理解し、よりよい生活を創造することができる」・「地域に残る文化や伝統への理解を深め、文化や伝統を守るために努力することができる」ような子どもに育てたいと考え、本単元を設定した。

動機づけとして、自分たちで作ったお米を食べたり、わら細工をしたりする等の体験をする中で、昔の人がいかにお米を大事にしてきたかを感じとらせたい。また、現代のお米の問題点について関心をもたせるために、専門家の話を聞かせ、お米のよさをみんなに伝えてこうという気持ちをもたせたい。

追求では、グループの計画に沿って詳しく専門家やお年寄りの話を聞くなどの調査活動を通して、課題をより明確にさせ、昔の人々のお米の活用に見られる工夫や苦勞から、日本の食文化の素晴らしさに触れさせたい。さらに、自分の食生活をふり返り、お米のよさを踏まえた食生活の在り方について考えさせたい。また、米作りにおける農家の人々の苦勞を知る中で、わたしたちが食べているいろいろな食べ物には、作った人々の思いがあることに気づかせ、食べ物の大切さを感じとらせたい。

まとめとして、単元全体をふり返らせ、お米のよさに改めて気づき、米を中心としたバランスのとれた食生活をしていこうという気持ちをもたせたい。さらに発展として、自分でできる食生活の改善点を考え、実践したことを交流する場を設定しながら生活に生かしていけるように支援していきたい。

1-3 単元の見どころ

米の調査活動を通して、米のよさを理解するとともに、米の活用に見られる人々の知恵や工夫、苦勞などに気づき、これからの食事のあり方や改善点をみつけ、よりよい食生活を実践することができる。

1-4 単元の見どころ

○ 関心・意欲・態度

①お米に関心を持ち、自分から進んで活動する。

○ 思考・判断

①お米の大切さを伝えるための内容を考えることができる。

②お米の活用に見られる人々の工夫や苦勞から自分の食生活をふりかえり、米のよさを踏まえた食生活の改善点を考えることができる。

○ 技能・表現

①お米の大切さを相手に分かりやすく工夫してまとめ、伝えることができる。

○ 知識・理解

①お米の多様な用途やそこに見られる人々の知恵や工夫、苦勞に気づくことができる。

1-5 学習過程と評価計画

| | 学習活動 | 支援 | 評価規準 | | | | 主な評価資料 |
|-----------|--|---|---------|----|----|----|------------------------|
| | | | 関意 態 | 思判 | 技表 | 知理 | |
| 動機づけ ⑥ | (1)自分たちの育てた米を食べよう。(2時間) | ☒ ボランティアさんの力、自分たちの努力によって、実った米であることをもう一度思い出させるため、今までお世話になった人たちを招待したり、今までの振り返りカード、成長の記録を見直させたりする。 | | | | ① | ふりかえりカードの分析 |
| | (2)わら細工をしよう(2時間) | ☒ 昔の人は、稲を大事にしてきた思いを感じ取らせるため、地域のお年寄りに作り方を教えてもらったり、お話を聞いたりする。 | ① | | | | わら細工をしている場面の観察 |
| | (3)食料事務所の人の話を聞こう(1時間) ・食糧事務所の人の話 現代の米問題 消費量の減少、 自給率の低下 | ☒ 米の大切さや現代の問題に関心を持たせるため、専門家にいろいろな視点から話をしていただく。 | ① | | | | 学習カードの分析 |
| | (4)栄養士の方のお話を聞こう(1時間) 米の栄養 日本型食生活のよさ | ☒ 米のよさ、日本型食生活のよさについて話をしていただく。 | | | | ① | 学習カードの分析 |
| 問題把握 ③ | (5)自分たちの食生活について見直そう(1時間) ・自分の食生活をチェックする | ☒ 自分たちの食生活の問題点に気づかせるため、食生活をチェックできるカードを用意する。 | ① | | | | ・自分の食生活を振り返っての学習カードの分析 |
| | (6)自分たちの食生活について話し合いテーマを決めよう(1時間) | ☒ 今は米の消費量が減ってきており、米を守っていかななくてはならないという気持ちにさせるため、振り返りカードを見直して今まで話を聞いたことや調べたことを思い出させる。 一人一人がしっかり自分の考え出し合えるよう、分の考えを書かせてから交流する。 | ① | | | | 話し合いの場面の観察 |
| | | お米の大切さを伝えて、より多くの米を食べてもらおう ～守ろう日本の心～ | | | | | |

| | | | | | | |
|---------|---|--|---|---|------------|-------------|
| 計画 ④ | (7)米を見直してもらうための内容を決めてグループをつくり計画を立てよう ①伝える内容を考える(2時間) ・米の栄養、玄米のおいしい食べ方 ・栄養たっぷりの米料理 ・昔から伝わる米を食べる工夫 ・米に合う栄養バランスのとれた献立 ・米づくりの苦労など | <p>【支】 一人一人が自分の追求したいことをしっかりと持てるよう、今までの資料や、参考になりそうな本を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校のみんなに、米を大切さを知ってもらえるような内容になるよう考えさせる。 | ① | | 学習カードの分析 | |
| | ②グループをつくり、計画を立てよう。(2時間) 活動内容を考える 発表の方法を考える 役割分担をして、計画を立てる。 | <p>【支】 グループのテーマに合った追求の仕方になるよう、多様な追求の方法をアドバイスする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの役割をはっきりさせる。 ・計画表を作らせ、見通しを持たせる。 | ① | | 話し合いの場面の観察 | |
| 追究 ○ | (8)計画に沿って、調べ活動をする。(10時間) ・取材、調査、体験 ・ゲストティーチャーの話を聞くなど ・調べたことをまとめ発表の練習をしよう(4時間) | <p>【支】 米に込められた人々の思い、苦労を知るため、専門家や地域の人、お年寄りに話を聞くよう助言する。</p> <p>【支】 お米のよさや大切さが実感できるよう、インタビュー、アンケート調査、体験活動をするなど多様な追求方法をアドバイスする。</p> <p>【支】 わかりやすく伝えることができるようにするため、国語科で学習したことを想起させながら、発表の仕方、方法をしっかり考えさせる。毎時間のふりかえりをしっかりさせることで、一人ひとりの課題をはっきりさせて、見通しを持たせるようにする。</p> | ① | ② | ① | ふりかえりカードの分析 |
| | (9)交流をしよう(3時間) | <p>【支】 相互評価によってよりよい発表にすることができよう、見る視点をはっきりさせておく。</p> <p>【支】 友達の発表を見ることによってもう一度自分の食生活をふり返ることができるよう、ふりかえりの観点をあらかじめ示しておく。</p> | ① | ① | ① | ふりかえりカードの分析 |
| | (10)よりよい発表になるよう工夫しよう(2時間) | <p>【支】 自分たちの発表がより相手にわかりやすいものになるよう、中間交流会での反省を生かして工夫するよう助言する。</p> | | ① | | ふりかえりカードの分析 |
| | (11)『米っ子広場』を開く。(2時間) ・資料の展示、発表 ・実演、試食 ・VTR ・劇 | <p>【支】 よりよい発表になるよう、一人一人に交流会の反省を生かした自分なりのめあてをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が責任をもって活動できるように、事前の打ち合わせをしっかりとさせる。 | | ① | ① | ふりかえりカードの分析 |

| | | | | | | |
|----------|---|--|---|---|--|----------|
| まとめ ② | <p>(12) 自分の食生活をふりかえり、これからの自分のくらしを見直そう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオをもとに単元全体をふりかえり、自分の食生活を見つめなおし、ふりかえりの作文を書く。 | <p>支 ① ②</p> <p>自分の成長を意識させるため、これまで集積したポートフォリオを活用するよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を振り返らせ、これらの食生活の改善点を考えさせる。 | ① | ② | | ① 作文の分析 |
| 発展 ② | <p>(13) 健康な体を作るために自分でできる食生活の改善点を考え実践してみよう。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流をしよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることを実践させる。 ・継続した取り組みができるよう声をかけていく。 | ① | ② | | 学習カードの分析 |

1-6 評価資料 (略)

1-7 評価基準

| 学習過程 | 学習活動 | 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価資料 | 評価基準 | | |
|-----------|--|-------------------------|---|--------------------------|--|---|---|
| | | | | | 3 | 2 | 1 |
| 動機づけ ⑥ | (1) 自分たちの育てた米を食べよう。(2時間) | 知識・理解① | 農家の人の苦勞に改めて気づくことができる。 | ふりかえりカードの分析 | 農家の人の苦勞と自分たちの苦勞両方に触れた感想を書いている。 | 自分たちの苦勞にだけ触れた感想を書いている。 | どちらの苦勞にもふれた感想を書いている。 |
| | (2) わら細工をしよう(2時間) | 関心・意欲・態度① | 進んでわら細工ができる。 | わら細工をしている場面の観察 | わら細工最後をまで集中してしている。 | わら細工を、集中してしている。 | 教師やゲストティーチャーに支援されて、わら細工をしている。 |
| | (3) 食料事務所の人の話を聞こう(1時間) ・食糧事務所の人の話 現代の米問題 消費量の減少、 自給率の低下 | 関心・意欲・態度① | 米のよさや今の問題について関心を持つことができる。 | ふりかえりカードの分析 | 米のよさ、問題に関心を持ち、自分の食生活を振り返っている。 | 米のよさ、問題に関心を持った感想を書いている。 | 米のよさ、問題に関心を持った感想を書いている。 |
| 問題把握 ④ | (4) 栄養士の方のお話を聞こう(1時間) 米の栄養 日本型食生活のよさ | 知識・理解① | 米のよさ、日本型食生活のよさがわかる | ふりかえりカードの分析 | 日本型食生活のよさと米のよさ両方についての感想を書いている。 | 日本型食生活のよさと米のよさどちらか一方についての感想を書いている。 | 日本型食生活のよさか米のよさどちらか一方についての感想も書いている。 |
| | (5) 自分たちの食生活について見直そう(1時間) ・自分の食生活をチェックする | 関心・意欲・態度① | 自分たちの食生活をふりかえり、自分たちの食生活に関心を持つことができる。 | ふりかえりカードの分析 | 自分たちの食生活をふりかえり、問題点をみつけ、改善方法を考えている。 | 自分たちの食生活をふりかえり、問題点を書いている。 | 自分たちの食生活をふりかえり、問題点を見つけない。 |
| 計画 ④ | (6) 自分たちの食生活について話し合いテーマを決めよう(2時間) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">お米の大切さを伝えて、より多くの米を食べてもらおう ～守ろう日本の心～</div> | 思考・判断① | 自分たちの食生活に関心を持ち、話し合いに集中して参加することができる。 | ふりかえりカードの分析 | 話し合いに集中して参加し、進んで自分の意見を発表している。 | 話し合いに集中して参加している。 | 話し合いに集中して参加できない。 |
| | (7) 米を見直してもらおうための内容を決めてグループをつくる計画を立てよう ①伝える内容を考える(2時間) ・米の栄養、玄米のおいしい食べ方 ・栄養たっぷりの米料理 ・昔から伝わる米を食べる工夫 ・米に合う栄養バランスのとれた献立 ・米づくりの苦勞など | 思考・判断① | 自分で伝えたい内容を考えることができる。 | ふりかえりカード | 自分で伝えたいことについて内容だけでなく、具体的にどのように調べたいか書いている。 | 自分の伝えたい内容を書いている。 | 自分の伝えたい内容を書いている。 |
| | ②グループをつくり、計画を立てよう。(2時間) 活動内容を考える 発表の方法を考える 役割分担をして、計画を立てる。 | 関心・意欲・態度① | 米を見直してもらおうための活動内容を考え、活動計画を立てることができる。 | ・話し合いの場面の観察 | 米の大切さを伝えるために自分から進んで、グループの中心になって活動計画を立てている。 | 米の大切さを伝えるために活動内容を自分で考え、活動計画を立てている。 | 友だちの意見を聞いて、初めて活動内容を考えたり、計画をたてたりしている。 |
| | (8) お米ギャラリーを開こう。 ①計画に沿って、調べ活動をする。(10時間) ・取材、調査、体験 ・ゲストティーチャーの話を聞く など 調べたことをまとめ発表の練習をしよう。(4時間) | 関心・意欲・態度① 知識・理解① | 自分から進んで、調査活動することができる。 米の多様な用途やそこに見られる人々の知恵、工夫、苦勞、願いに気づくことができる。 | ふりかえりカード ふりかえりカード | 友だちに声かけをしながら、中心になって調査活動をしている。 人々の知恵や工夫、苦勞、人々の願いのなかの2つ以上に気づいている。 | 自分のすることをみつけて、進んで調査活動をしている。 人々の知恵や工夫、苦勞、人々の願いのどれか1つに気づいている。 | 教師や友達の支援を受けて、自分のすることみつけ活動している。 人々の知恵、工夫、苦勞、願いに気づいていない。 |

| | | | | | | | |
|----------|---|-----------|--|-------------|---|--|---------------------------------------|
| | | 思考・判断① | 自分たちの食生活をふりかえり、改善点を考えることができる。 | ふりかえりカードの分析 | 自分たちの食生活をふりかえり、米のよさをふまえた改善点をいくつも考えている。 | 自分たちの食生活をふりかえり、米のよさを踏まえた改善点を1つ考えている。 | 米のよさを踏まえた改善点を考えていない。 |
| | 調べたことをまとめて発表の練習をしよう。(4時間) | 技能・表現① | 自分たちの伝えたいことを相手にわかりやすく、伝える工夫をすることができる。 | ふりかえりカードの分析 | 声の出し方、絵や図による表現に加え、話す順序、簡潔な表現などの工夫をしている。 | 声の出し方、絵や図による表現などを活用して発表内容を工夫している。 | 声の出し方、絵や図による表現などを活用して発表内容を工夫していない。 |
| 追究 ○ | (9) 交流をしよう(3時間) | 技能・表現① | 自分たちの伝えたいことを相手にわかりやすく、伝えることができる。 | ふりかえりカードの分析 | 声の出し方、絵や図による表現に加え、話す順序、簡潔な表現などの工夫をして発表している。 | 声の出し方、絵や図による表現などを活用して発表している。 | 発表原稿を見ながら小さな声で発表している。 |
| | | 知識・理解① | 友だちの発表を聞いて、改めて、米のよさ、人々の知恵や工夫、苦勞に気づくことができる。 | ふりかえりカードの分析 | 友だちの発表を聞いて気づいた米のよさ、人々の知恵や工夫、苦勞をいくつも書いている。 | 友だちの発表を聞いて気づいた米のよさ、人々の知恵や工夫、苦勞を一つ書いている。 | 友だちの発表を聞いて気づいた米のよさ、人々の知恵や工夫、苦勞を書いている。 |
| | | 思考・判断② | 自分たちの食生活をふりかえり、改善点を考えることができる。 | ふりかえりカードの分析 | 自分たちの食生活をふりかえり、米をふまえた改善点をいくつも考えている。 | 自分たちの食生活をふりかえり、米のよさを踏まえた改善点を一つ考えている。 | 米のよさを踏まえた改善点を考えていない。 |
| | (10) よりよい発表になるよう工夫しよう(2時間) | 技能・表現① | 相互評価を生かし、よりよい、表現方法を工夫することができる。 | ふりかえりカードの分析 | 相互評価を生かし、よりよい表現方法をいくつも工夫しよりよい発表にしている。 | 相互評価を生かし、よりよい表現方法を工夫しようとしている。 | 相互評価を生かしたよりよい表現方法を工夫していない。 |
| | (11) お米ギャラリーを開く。(2時間) ・資料の展示、発表 ・実演、試食 ・VTR ・劇 | 関心・意欲・態度① | 相手に分かりやすい発表をすることができる。 | ふりかえりカードの分析 | 中間交流の反省を生かし、声の出し方、絵や図による表現に加え、話す順序、簡潔な表現などの工夫をしている。 | 中間交流の反省を生かし、声の出し方、絵や図による表現などを活用して発表している。 | 発表原稿を見ながら小さな声で発表している。 |
| まとめ ② | (12) 自分の食生活をふりかえり、これからの自分のくらしを見直そう。(2時間) ・ポートフォリオをもとに単元全体をふりかえり、自分の食生活を見つめなおし、ふりかえりの作文を書く。 | 関心・意欲・態度① | 米の問題に関心を持つことができる。 | 作文の分析 | 米の問題に関心を持ち、いろいろな場面で自分から進んで活動したことを書いている。 | 米の問題に関心を持ち、自分から進んで活動したことを書いている。 | 米の問題に関心をもてない。 |
| | | 思考・判断② | 自分の食生活をふりかえり、これからの生活を見直すことができる。 | 作文の分析 | これからの食生活について、自分の生活をしっかりと見つめ、改善点を具体的に書いている。 | これからの食生活について、改善点を書くことができる。 | これからの食生活について、改善点書くことができない。 |
| | | 知識・理解① | 人々の知恵や工夫、苦勞に気づくことができる。 | 作文の分析 | 関わった人だけでなく、様々な人々の知恵や工夫、苦勞、に気づいている。 | 関わった人々の知恵や工夫、苦勞、に気づいている。 | 関わった人々の知恵や工夫、苦勞、に気づいていない。 |
| 発展 ② | (13) 健康な体を作るために自分でできる食生活の改善点を考え実践してみよう。(2時間) ・交流をしよう。 | 思考・判断② | 食生活の改善点を考えることができる。 | 学習カードの分析 | 自分の生活をしっかりと見つめ、それを改善点するための方法をいくつも書いている。 | 食生活の改善点を書いている。 | 改善点を書いていない。 |
| | | 関心・意欲・態度① | 食生活の改善しようとして進んで実行することができる。 | 学習カードの分析 | 食生活を改善しようとして毎日実践することができる。 | 食生活を改善しようとして時々実践している。 | 実践していない。 |

2 授業と評価の実際

2-1 指導と評価の一体化の実践

学習活動1（動機づけ） 自分たちで育てた米を食べよう

① 指導・学習の過程

6月から育てたお米の収穫を終えた子どもたちから、「お米パーティーを開きたい」という声が上がった。お米をどうやって食べるのか、だれを呼ぶのかなどを話し合った結果、「米そのままの味を味わいたい。」という子が多かったため、おむすびにして食べることに決まった。お米づくりでお世話になったゲストティーチャーの方を2人お呼びしてささやかなパーティーをおこなった。おむすびを作る活動の中で、子どもたちは、お米の1粒もテーブルや床に落とさないように気をつけたり、手についたご飯を洗い落とさず食べたりしている姿も見られ、全員が完食できた。田植えから収穫まで約150日を費やしたこと、その間のいろいろな苦労を思い出しながらの食事であった。食後、ゲストティーチャーの方から、ものを作ることの苦労や1つ1つのものにこめられている作り手の思いについてのお話を聞き、より強くお米の大切さを感じる事ができた。



みんなで育てたお米をととてもおいしかったです。今まで育ててきたかいがあったなあと思いつつ、おむすびを食べました。ふつうの米よりはるかにおいしかったです。米を一粒一粒大事に食べました。僕たちが毎日食べている米は、農家の方が、一粒一粒大事に育てた米だから、残さず食べないといけないなあと思いました。

また、お米だけでなく、いろんな食べ物や文ぼうぐ、おもちゃなどの中にも作った人の思いがあることをゲストティーチャーの方から聞いて、物を大切にしないといけないなあと思いました。(A児)



私が育てた米は、こつぶでもちもちしていました。食べていると、育てたときのことが頭にうかんできました。初めての肥料やり、夏休みにこうたいでした水やり、はぜかけをした時、もみすりの時といろいろな思い出があります。その思い出一つ一つが小さなつぶの中にきざみこまれているなあと思いつつ食べました。それに最後のゲストティーチャーさんの話では、物を大切にしていこうという気になりました。私たちが造ったお米もそまつにしたいから、おむすびを作る時、

ボールにお米が残っていないかなあと注意しながらにぎりました。だから、私がつくったお米じゃなくても作った人の気持ちになって、大切にしないといけないなあと思いました。(B児)

② 評価結果

活動の後の子どもたちの学習カードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|----------------------|------|-----|-----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 知識・理解① | 農家の人の苦勞に改めて気づくことができる | 16人 | 39人 | 17人 |

「自分たちが育てたお米を食べる」活動では、米作りの苦勞を思い出しながら、一粒一粒大切に食べることができたが、自分たちの苦勞にのみ意識がいった児童が 39 人、お米のおいしさのみに感動した子が 17 人と多く、農家の人々の苦勞にまで気づいた子は、16 人と少なかった。

学習活動 2 (動機づけ) わら細工をしてお米に関心を持つ

① 指導・学習の過程

次に、収穫後にとれたわらで、わら細工を経験した。地域のお年寄りにお願いしてわらのない方やしめ縄づくりを教わった。活動中、ゲストティーチャーの方から昔の食生活やわらの活用方法の話聞き、お米は、食べるだけでなく、わら・もみ・ぬかなど全てが私たちの生活の中に生かされていることを知り、改めてお米のすばらしさと昔の人々の知恵について知ることができた。



② 評価結果

わら細工をする活動場面の観察によって評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-----------|------------------|------|----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度① | 進んでわら細工ができる | 69人 | 3人 | 0人 |

「わら細工をする」活動では、初めての体験ということもあって、大変興味深く活動ができ、「3」の評価の子が 69 人であった。

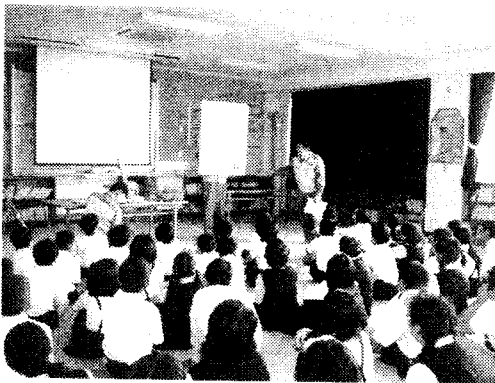
学習活動3（動機づけ） 食糧事務所の人の話を聞いて、お米の問題点について考える

① 指導・学習の過程

米作りを体験し、わら細工を体験した子どもたちは、米の苦労や昔の人々の知恵についてはわかってきたが、それ以外の米のよさや米の問題点については認識が薄いため、食料事務所の方から「米の種類」「米の品種」「米の栄養」「米の消費量」「水田の役割」などについてのお話をうかがうことにした。

- ・ お米にはたくさんの栄養素が含まれていること
- ・ お米はいろんなものとの組み合わせができバランスのとれた食事ができること
- ・ 在お米の消費量は減少しつつあり、このままでいくと日本の農業が危ないこと
- ・ 水田は、水をたくさん蓄えることができ、洪水を防ぐ役割をしていること
- ・ 水田には、空気や水をきれいにする働きがあること
- ・ 水田が環境を守る働きをしていること

以上のような話から、子どもたちは、お米のよさを知り「みんなにもお米を食べてもらいたい。」「日本の米を守りたい」という気持ちを強くした。1学期に社会科で「日本の農業」について学習した際に、日本の米問題について学習していたが、食糧事務所の人から話を聞くことで、より深く米の問題を考えることができた。この他にも、いろいろな国の米や米の歴史などの話もあり、興味深く聞くことができた。



食糧庁の人の話を聞いて、米はとても小さいつぶなのに、その中に5つもの栄養素がふくまれているなんてびっくりしました。それに、お米は、3000年くらい前に来たという話を聞いて、そんなに前から昔の人が大切にしてきたお米をしっかり食べていけないなあと思いました。(C児)

田んぼは、水を蓄えるだけでなく、洪水を防いでいると聞いてすごいと思いました。だから、もっと大事にしたいと思いました。1つぶのお米に、私たちに必要な5つの栄養素が入っていることを知ってお米は私たちにとってとても大事なものだということがよくわかりました。今日お話を聞いて、私たちが、今まで苦労して米を育ててきた会があったなあと思いました。(D児)

② 評価結果

食料事務所の方の話を聞いた後の子どもたちの学習カードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-------|------------------|------|---|---|
| | | 3 | 2 | 1 |
| | | | | |

| | | | | |
|----------|----------------------------|----|-----|-----|
| 関心・意欲・態度 | 米のよさや現在の米問題について感心をもつことができる | 8人 | 41人 | 23人 |
|----------|----------------------------|----|-----|-----|

③ 指導の改善と実施

米の栄養や米問題について感心を持った感想を書いた子は50人であった。食糧事務所の人からお話を聞く際、事前に話の内容について打ち合わせを行ったが、限られた時間で盛りだくさんの話になってしまい、焦点を絞った内容の話になりにくかった。そのため、ふりかえりカードに、クイズや実物提示で説明された米の種類や生産地などの感想しかかけなかった子が23人もいた。次に、栄養士の先生の話を書くことになっているので、その話を聞くことで米のよさについて興味・関心は高まることができると考え、そのまま次の活動に入った。

学習活動4（動機づけ） 栄養士の先生の話を書いて、お米のよさを知ろう

① 指導・学習の過程

栄養士の先生に来ていただき、日本型食生活のすばらしさについての話を聞いた。絵やグラフ、図などを使ったり、クイズをしたりと興味を引くような話をしてくださり、子どもたちは真剣に話を聞いていた。

② 評価結果

栄養士の先生の話聞いた時のふりかえりカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-------|------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 知識・理解 | 日本型食生活のよさを知る。 | 23人 | 45人 | 4人 |

③ 指導の改善と実施

お米を中心とした日本型食生活のよさについての感想を書いた子が68人いた。わかりやすい話で、子どもたちは、興味を持って聞き、日本型食生活のよさがよくわかったようである。なお、「1」の評定の子4人は、栄養についてよく理解していないように思われた。家庭科の時間の学習において改めて指導することを考え、次の活動に進むことにした。



日本の食事は、きれいにPFCの三角形ができてから、すごいなあとおもいました。ご飯には、どんなおかずでもあうからやっぱりご飯はバランスのよい食事ができるんだと思いました。ご飯を食べないとバランスのいい食事ができないし、病気になりやすくなってしまいますから、朝、昼、晩ちゃんとご飯を食べたいです。給食も残さず食べたいと思いました。(E児)

学習活動5（問題把握）①自分たちの食生活について見直そう

① 指導・学習の過程

食糧事務所の人や栄養士の先生から、米の栄養や主食として米が優れていることや、今米の消費が減ってきていることを聞いた子どもたちは、もっとお米を食べなくてはいけないと感じたように思われた。このため「では、実際に普段の食生活はどのようになっているのか」と問いかけ、自分の食生活を振りかえらせることにした。

② 評価結果

振りかえりカードを基に評価した結果、次のようであった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|----------|-------------------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度 | 自分たちの食生活をふりかえり、自分たちの食生活に関心を持つことができる | 43人 | 29人 | 3人 |

72人の子が自分の食生活の問題点に気づいていた。そのうち43人の子は、改善方法まで考えることができていた。ほとんどの子が食生活に関心を持つことができた。評価「1」の3人は、自分食生活の問題点に気づいていなかった。

③ 指導の改善と実施

そこで、家庭科の栄養の学習の際に、毎日の食事の献立を書かせたり、家庭で親にどのようなことに気をつけているかについてインタビューをさせたりした。そのことで、「1」の評価の3人も、自分の食生活の問題点について気づくことができた。

学習活動6（問題把握）自分たちの食生活について話し合いテーマを決めよう

① 活動の学習の過程

学年集会を開いて、今までのことを思い起こさせ、テーマを決めていくことにした。お米を食べたときのことから、一つ一つ振りかえりカードを見直させながら話し合いを進めていった。その結果お米を食べたときのこと、縄作りのこと、食糧庁の人から話を聞いたときのこと、それぞれのときの気持ちを思い起こす中で、人々が昔から大切に守ってきた日本の米を自分たちの力で守りたい、みんなに日本のお米のよさを知らせたいという気持ちが強くなってきたように思われる。

② 評価結果

学年集会のテーマについて話し合いをしている場面の観察により、次のよう評価結果になった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|----------|-------------------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度 | 自分たちの食生活に関心を持ち、話し合いに集中して参加することができる。 | 24人 | 45人 | 3人 |

③ 指導の改善と実施

学年全体で話し合いを行ったため、人数が多く、なかなか全員に発言させることができなかつたが、ほとんどの子が、集中して話し合いに参加していた。すなわち、話し合いに集中して参加していた子どもは69人。そのうち、進んで自分の意見を発表したものは24人であった。集中して参加していなかったものは3人であった。なお、評価「1」の子に対しては、個別に支援をして、話し合いに集中するよう声をかけていった。

学習活動7 (計画) 米を見直してもらうための内容を決めて、グループを作り計画をたてよう

① 指導・学習の過程

テーマに沿って、どのような内容を伝えたいのかについて、話し合いをしていった。話し合いをする中で、少しずつやりたいことが具体的になってきた。

続いて、大まかな流れを話し合い、いつ、だれに、どのような方法で調べ、伝えるのかを考えていった。伝える方法について、はじめは、ポスターを書くとか、模造紙にまとめて発表するとかいった意見しかでてこなかったが、「劇とか歌でつたえる方法もあるよ。実演をしてもいいよ。」といろいろな方法を知らせていくと、だんだん、伝える方法が多様になっていった。また、全体の日程を話し合うことで、先の見通しを持って行動しなければならないことに気づいていった。

その後、一人一人に自分のやりたいことを書かせ、なぜそれがやりたいのか、どのような方法で調べたいのかを書かせて、一人一人のやりたいことをはっきりさせ、グループわけをしていった。その際、ひとつのグループの人数はなるべく少人数になるようにした。大人数のグループも役割分担をはっきりさせ、一人一人がしっかりと考え活躍できるように配慮した。

② 評価結果

グループで話し合いをした後の振り返りカードを分析した結果、次のようであった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|-------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 思考・判断① | 自分で伝えたいことの内容を考えることができる。 | 50人 | 22人 | 0人 |

③ 指導の改善と実施

自分の伝えたい内容については72人全員が、はっきりと書くことができた。そのうちの50人の子どもは、調べる方法まで、具体的に考えることができた。

次に、これらの内容をもとに各グループで伝える内容とともにその方法、役割分担など計画をたてることにした。

④ 評価結果

グループの話し合いによる計画作りの様子を観察した結果次のような評価であった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|-------------------------------------|------|-----|-----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 思考・判断① | 米を見直してもらうための活動内容を考え、活動計画をたてることができる。 | 15人 | 36人 | 21人 |

51人子はうまくいったが、21人の子は、自分から活動内容を考え、活動計画をたてるのが難しかったようである。何について調べたいかははっきりしていても、どうやって調べていいのかがわからなかったのであろう。それでも、友だちの意見を聞いたり、教師がアドバイスしたりすることにより、全員一通りの活動計画をたてることができた。

学習活動8（追求） 計画に沿って調べ活動をする

① 指導・学習の過程

どのグループも自分たちの立てた活動計画に従って活動を行っていった。インターネットや本で調べて、料理のレシピを作るグループ、ゲストティーチャーを探し、お願いの電話をするグループ、専門家や地域の人にインタビューに行くために、お願いの電話をし、インタビューの内容を考えるグループ、アンケートをとるためアンケートの内容を考えるグループ、それぞれに、自分たちの調べたいことに沿った調査方法を考え活動を進めた。

② 評価結果

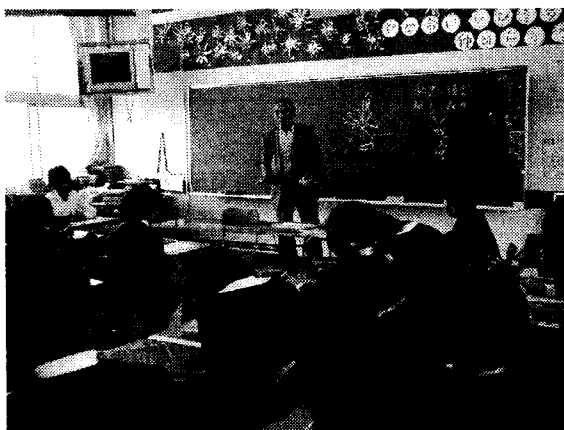
グループごとにインターネットや本で調べたり、インタビュー、アンケートの準備をしたりしているときの子どもたちのふり返りカードを評価資料として評価した。その結果、次

のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-----------|------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度① | 自分から進んで、調査活動をすることができる。 | 13人 | 51人 | 8人 |

③ 指導の改善と実施

進んで活動できた子が64人。8人は、自ら進んでは活動できなかった。今、自分のすべきことがわからないようであったため、計画を見直させ、何をしなければいけないのか考えさせた。



次に、インターネットや本で調べるだけでなく、自分たちで探してきたゲストティーチャーさんに、地域の人にインタビューをしたりと体験学習を行った。子どもたちは、意欲的に活動した。その中で、米のよさや、米に込められた人々の思いや苦勞を感じ取っていった。活動の終わりには、毎回視点を持たせた評価カードでふり返らせた。

④ 評価結果

インタビュー、アンケート、料理作りなど体験活動を行ったときの、子どもたち一人ひとりのふり返りカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-----------|---------------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度① | 自分から進んで、調査活動をすることができる。 | 48人 | 24人 | 0人 |
| 知識・理解① | 米の大切さ、人々の知恵、工夫、苦勞、願いに気づくことができる。 | 29人 | 42人 | 1人 |

⑤ 指導の改善と実施

関心・意欲・態度については、全員が、進んで活動することができた。前の活動で「1」の評価だった子が8人いたが、この活動では0人になった。体験すること、人と触れ合うことで、どの子も意欲的に活動できたと思われる。知識・理解については、71人の子が米

の大切さ、人々の知恵、工夫、苦勞、願いに気づいていた。しかし、そのうち、評価「3」の子は29人であった。残る子は、ゲストティーチャー、専門家、地域の人から話をきくことで、米の大切さ、人々の知恵、工夫、願いに気づいていったが、ひとつのテーマについて考えているため、2つ以上の知恵、工夫、願いに気づくことは難しかったようである。なお、「1」の子1人については、ゲストティーチャーさんの言われたことを思い出させたり、体験する中で感じたことを言わせたりする中で気づかせていった。

ふりかえりカードより

めあて

アンケートをとるからお客さんに迷惑がかからないようにする。

感想

お客さんが急いでいるときには、声をかけずにできたし、お客さんが答えやすいようにできた。お客さんはしっかりきいてくれたのでよかった。米は、ほとんどの人が食べているから地域の人が米を大切にしてくれてよかった。(F児)

〇〇さんの話を聞いて、私は、今は機械が使われるようになって朝早く起きてするようなことはないかなあと思っていたのに朝は朝5時ごろに起きて水を調節に行くのが大変と聞いて、びっくりしました。それに、〇〇さんは「採算が合わないから困っている」といわれました。私が、「採算が合わないのならやめようと思わないのですか？」と聞くと、「ご先祖様が大事に守ってきた土地だから、やめられない。」といわれました。私は、すごいなあと思いました。(G児)

その後、自分たちが調べてわかったことを全校のみんなに伝えようと、まとめを行うことにした。前半の2時間においては、写真、絵、グラフを使いながら模造紙にまとめる、クイズをする、劇をする、実演してみせるなどそれぞれのグループで、そのグループにあったまとめの仕方を考えていった。

⑥ 評価結果

このようなまとめの状況を子どもたちのふりかえりカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|---------------------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 技能・表現① | 自分たちの伝えたいことを相手に分かりやすく、伝える工夫をすることができる。 | 9人 | 56人 | 7人 |

⑦ 指導の改善と実施

関心・意欲・態度は、初めの2時間は評価が「3」の子が9人、「2」の子が56人、「1」の子が7人であった。「1」の子どもは、どのような工夫の仕方があるのかが分かっていなかった。

そこで、相手に分かりやすく伝える工夫のポイントをつかむようにと考え、その評価基準を子どもたちに示し、その後、まとめをさせていった。子どもたちは、それを見ながら自分たちの発表がより分かりやすくなるよう考えていった。

⑧ 評価結果

まとめの後半2時間の後のふり返しカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|---------------------------------------|------|-----|-----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 技能・表現① | 自分たちの伝えたいことを相手に分かりやすく、伝える工夫をすることができる。 | 37人 | 35人 | 0人 |
| 思考・判断② | 自分たちの食生活をふり返し、改善点を考えることができる。 | 13人 | 36人 | 23人 |

技能・表現については、72人全員がわかりやすく伝える工夫をすることができた。評価基準を示したことで、どのようなまとめ方をすればよいのかがわかり、よりよい発表にしようと、自分たちで工夫することができたと思われる。

思考・判断については、「自分の食生活をふりかえり、改善点を考えることができた」のは49人。残る23人の子どもは、なかなかできなかった。お米のよさや大切さをみんなに伝えようとする意識の方が強く、自分たちの食生活をふり返し改善点を考えるという意識は薄れがちであったように思われる。次の交流をしたり、まとめをしたりする中で、考えることができるように留意することにした。

学習活動 9 (追求) 交流をしよう

① 指導・学習の過程

テーマに沿って調べまとめたことをもとに各グループ内で交流するとともに、発表を行うことにした。そのとき、見る視点をきめてアドバイスしあい、相互評価していった。

② 評価結果

交流の場面のふり返しカードを評価資料として評価した結果、以下のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|--|------|-----|-----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 技能・表現① | 自分たちの伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる。 | 18人 | 51人 | 3人 |
| 知識・理解② | 友達の発表を聞いて改めて米の大切さや人々の知恵、工夫、苦勞に気づくことができる。 | 33人 | 41人 | 0人 |
| 思考・判断② | 自分たちの食生活をふりかえり改善点を考えることができる。 | 13人 | 36人 | 23人 |

③ 指導の改善と実施

技能・表現については、自分の伝えたいことを相手に伝えることができた子が 69 人、できなかった子が 3 人であった。交流することで、相手を意識して伝えることができたと思われる。知識・理解については、74 人全員が交流することで改めて、米の大切さに人々の知恵、工夫、苦勞に気づくことができた。交流することで「3」の子が、学習活動 8 の①野 29 人から 33 人に増えている。思考・判断については、学習活動 8 の①の活動で自分たちの食生活をふり返るという意識が弱かったので、活動後のふり返しの中で意識が高まるよう支援を続けたが、やはり、同様の結果であった。この時も、相手を意識して発表していくことに意識がいており、自分を振り返ることは難しかったと思われる。振り返りカードの反省項目も具体的でなかったと思われる。まとめをするときに考えることができるよう留意することにした。

今日は、グループで発表して大きな声で言えてよかったし、ほかのグループの人にアドバイスを言えてよかったです。私もアドバイスされた所を気をつけて練習したいです。

お米は、いろんな料理に合うし、おいしいし、病気にもなりにくくなるからすごいなあと改めて思いました。(H 児)

学習活動10（追求） よりよい発表になるように工夫しよう。

① 指導・学習の過程

交流でアドバイスしあったことを生かし、よりよい発表になるように工夫して行った。各グループで、特に、低学年の人にわかりやすく伝えるためにはどのような工夫をすればいいか考えた。また、一人ひとりが責任を持って活動ができるように何度も事前の打ち合わせをし、よりよい発表になるよう工夫していった。

② 評価結果

よりよい発表になるよう工夫した後の振り返りカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|------------------------------|------|-----|---|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 技能・表現① | 相互評価を生かし、よりよい発表方法を工夫することができる | 21人 | 51人 | 0 |

交流でアドバイスしあった結果、74人全員がよりよい発表になるよう工夫することができた。相互評価することで、どこを工夫すればよいのかが分かったと思われる。

アドバイスされたことは歌を恥ずかしがらずに歌うことだったので、私はそれを気をつけてやりました。歌の振り付けに時間がかかったけど前より踊りがよくなったのでよかったです。(I児)

今日は、まとめの工夫の1と2と6ができた。今日はクイズを書き直しできたが練習ができなかったので、明日は練習をして一回終わったら、一人一回はもっと追求したらいいところとか省かなければいけないところを言い合ってよいものにしようと思いました。(J児)

学習活動11（追求） 『米っ子広場』を開こう。

① 指導・学習の過程

交流会での反省をもとに、それぞれのグループでよりよい発表になるように工夫し、全校に呼びかけ、『米っ子広場』を開いた。『米っ子広場』当日は、低学年から高学年まで大勢の子どもたちが真剣に聞いてくれ、相手を意識して堂々と発表していた。体育館のステージやフロアを使って、資料の展示をしたり、まき寿司の実演をしたり、炊き込み御飯やぬかづけを試食してもらったり、劇で表現したりした。アンケートには、もっとお米を食べないといけないと思ったなど、お米の大切さを感じた感想を書

いてくれる子どもが多かった。

② 評価結果

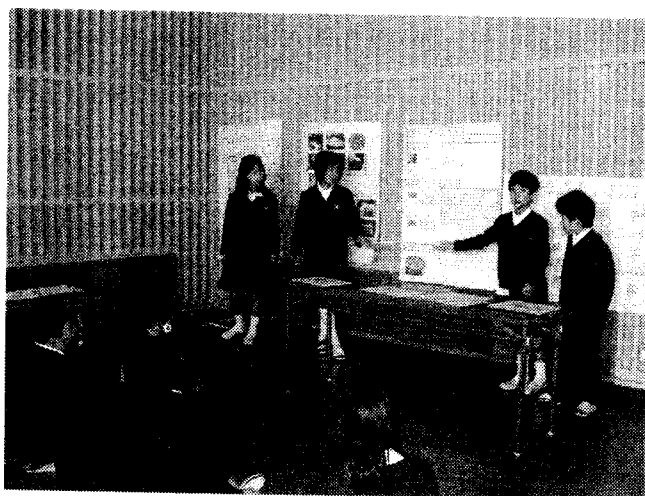
『米っ子広場』を開いた活動後のふり返しカードを評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|--------|-----------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 技能・表現① | 相手にわかりやすい発表をすることができる。 | 32人 | 38人 | 2人 |

「3」の評価の子が、学習活動8の②交流をしようのときは18人だったのが32人に増えた。相互評価を生かし、よりよい発表になるよう意識して練習した成果と思われる。「1」の評価2人については、緊張で、思うように発表できなかったためと思われる。



低学年の人がクイズをして楽しんでくれていたのでよかったです。それに、わかったことを発表したとき「すげー」言ってくれてよかったです。低学年の人がわかってくれるような発表ができてうれしかったです。(F児)



今日はいろんな人が見に来てくれて、一年生と紙にきてくれた人のほうを見て、大きな声で言えたし強弱ちゃんをつけられたのでよかったです。最初はすごく緊張したけどみんなが見てくれてうれしかったです。最後の拍手もうれしかったです。私はやってよかったですと思いました。(H児)

学習活動12（まとめ） 自分の食生活をふり返り、これからの自分のくらしを見直そう

① 指導・学習の過程

今までのポートフォリオをもとに単元全体をふり返り、自分の食生活を見つめ直し作文に書いた。その際、学習活動8の②の評価結果、とりわけ思考・判断の評価結果を向上させることを意図して、自分が調べたことや友だちの発表からわかった「お米のすばらしさや大切さ」を思いだし、「自分の食生活は、バランスのとれたものになっているだろうか」「お米を大切に食べているだろうか」など、今後、どんなことに気をつけて生活すればいいのかの視点を明らかにして考えさせることにした。

を考えた。

① 評価の結果

子どものたちの作文を評価資料として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-----------|-----------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 関心・意欲・態度① | お米の問題に関心を持つことができる | 30人 | 42人 | 0人 |
| 思考・判断② | 自分の生活をふり返りこれからの生活を見直すことができる | 37人 | 35人 | 0人 |
| 知識・理解① | 人々の知恵や工夫、苦勞に気づくことができる | 56人 | 16人 | 0人 |

学習活動8の②での“ふり返りカードの項目が具体的でなかった。”という反省を受け、予め作文を書く視点を具体的に示して書かせたため、焦点が絞られた作文を書くことができたように思われる。この学習では、全ての児童が、お米の活用に見られる人々の工夫や苦勞に気づき、自分の食生活をふり返り、お米のよさを踏まえた食生活の見直しを考えることができた。

私は、初め米は栄養もあるし、腹持ちがいいし、水田は環境も守っているからそんな米のいいところを伝えようと思っていました。そこで、料理を調べようと思いました。伝えるときに一番米を食べてもらえと思ったからです。その中でも、すしはみんなが好きなものだと思うのでそのいいところを伝えてもっとすしを食べてもらおうと思いました。

私は、インターネット調べました。すしのいいところをたくさん見つけました。散らし寿司を作るときはおばあちゃんにゲストティーチャーとしてきてもらいました。すし飯を混ぜるのは少し難しかったけど、がんばりました。

交流してみて私の欠点がわかりました。米っ子広場の時には緊張したけど、交流のとき

のアドバイスを生かしてできたし、真剣にきいてくれてうれしかったです。

すしを調べて、すしにはいろんな種類があることやすし飯にしてほかのものといっしょに食べやすくしてあること、具や形を工夫すればきれいなものや具沢山で栄養のあるものもできることがわかりました。

ついた力は、自分から進んで追求していく力です。進んで調べたりゲストティーチャーを呼んできたり、まとめの方法を考えることができました。

私は、これからこの学習で学んだことを生活に生かして生きたいです。米を中心にバランスのよい食事をしたり、栄養のあるすしを作って食べたりして米を大切にしていきたいです。(K児)

学習活動13(発展) 健康な体を作るために自分でできる食生活の改善点を考え実践してみよう

① 指導・学習の過程

その後、2週間ほどたって一人一人が、どんな実践をしているか書かせ、それを交流した。

交流することで、また、新しい改善方法を知ることができ、自分もやってみようという意欲が出てきたように感じた。

② 評価結果

一人一人の実践を書いた学習カードを評価として評価した結果、次のようになった。

| 評価の観点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価結果 | | |
|-----------|--------------------------|------|-----|----|
| | | 3 | 2 | 1 |
| 思考・判断② | 食生活の改善点を考えることができる | 43人 | 29人 | 0人 |
| 関心・意欲・態度② | 食生活を改善しようと進んで実行することができる。 | 19人 | 53人 | 0人 |

72人全員が食生活の改善点を考え、進んで実行することができていた。
このような活動が、長く続くよう今後とも見守っていくことにしたい。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第一レベルの工夫

① 学習活動6の自己評価するときに、教師が“話し合いに集中して参加していたら

“2”話し合いに集中して参加し、進んで自分の意見を発表していたら“3”などと評価基準を提示し、それに基づいて自己評価をさせる工夫をした。

その結果、子どもから次のような感想が得られた。

- ・ あまり考えずに自己評価をしていたけど、どんな活動したら“3”になるのか教えてもらってからは、じっくり考えてかくようにしました。
(5人)
- ・ 自分の活動が“3”なのか“2”わからなくて、先生の評価と自分の評価がちがうことが多かったけど、教えてもらってよくわかった。(7人)
- ・ ○○ができたら「3」、○○ができたら「2」、○○ができなかったら「1」というふうにくわしく教えてもらったら「3」がとれるようにがんばろうと思った。(3人)
- ・ 最初、自己評価をするとき「3」か「2」かまよっていたけど、どのくらいの活動をすると「3」になるのか分かって、最後の方では、まよわず自己評価ができるようになった。(2人)

② 自己評価後、評価カードにいいところや足りないところのコメントを書いたり、大切などころには、アンダーラインを入れて返した。また、「1」の評価が続いた子には個人面談をし、次の活動の目当てを具体的に支援していった。

その結果、次のような感想が得られた。

- ・ 自分に欠けているところやまだ深く考えていかなければならないところがわかってよかった。(4人)
- ・ 自分のふり返しカードが返ってくるのが楽しみだった。自己評価力がついたと思う。(18人)
- ・ 自分の活動が深くならなかった日は、ふり返しカードを書くのがいやだったけど、しっかりできた時は書くのが楽しみで、見てもらうのが楽しみだった。(3人)
- ・ 次の時間にどんなことをしたらいいのか、めあてをはっきりさせることができた。(14人)
- ・ 先生からのコメントを参考に明日は、“3”になろうと思ってがんばりました。(12人)
- ・ 自分がその時間どれくらいできたのかできたのか、わかってよかった。
(8人)
- ・ 先生が、赤線を引いてくれたところを見てどんな活動が大切なのかよくわかった。(4人)

- ③ 活動の前に、予め評価の観点と評価基準を開示し、それに沿って意欲的に活動できるように工夫をした。

〈技能・表現の評価基準〉 学習活動8の後半（追求のまとめ段階）

まとめ方 お米の大切さ、日本の心を伝えよう

☆相手によく分かるようにまとめかたを工夫しよう

- (2)・だれに向かって話すのかを考えてわかりやすい言葉にする。
〈低学年に分かるように〉
- (2)・絵や図、写真などをうまく使う。
- (2)・分かりやすい文、短い文にする。主語と述語の間を短くする。
- (3)・接続詞を上手に使い、順序立てて話す。
- (3)・初めに、話す内容を大まかにまとめて言う。
- (3)・必要などころにくわしく述べる文を加えたり、必要のないところをはぶいたりする。
- (3)・問いかけの文を入れて、興味を引く。

☆相手に分かるように発表の仕方を工夫しよう

- (2)・相手に聞こえるような大きな声で話す
- (2)・相手を見て、相手の反応を見ながら話す。
- (3)・まとまりごとに間をおいたり、声の調子を改めたりする。

- ・ どんな活動をしたら、「3」なのかわかりやすくおしえてもらったので、「3」になるように考えながら活動した。(8人)
- ・ 活動のめあてがはっきりしなかったことがあったが、めあての基準を教えてもらってから活動したので、「3」に評価をつけてもらってうれしかった。(3人)
- ・ 活動をするとき、評価基準を参考にして「3」になるようにがんばった。(3人)

(2) 第二レベルの工夫

中間発表会では、「相手にわかりやすく発表しよう」をめあてに活動を行った。その結果、「3」が18人、「2」が51人、「1」が3人であった。(学習活動9の評価結果参照) 活動後、相互評価を行い、各グループでよりよい発表になるよう原稿の推敲を行い練習をした。本発表会では、「3」が32人、「2」が38人、「1」が2人とほとんどの子がよりよい発表ができた。(学習活動11の評価結果参照)

このような例を農家の人の苦労を劇にして伝えるグループA児の活動によってみると次のようであった。

○中間発表会 めあて・・・声に強弱をつけて気持ちが伝わるようにする
活動・・・ステージの上で劇やお米のPRソングの発表をした
4グループに分かれて交流をし、それぞれのグループごとに相互評価をし合った。
ふり返り・・・少しきんちょうしたけど、大きな声で声に強弱をつけて発表できた。でも、相手の方を見て気持ちが伝わるように発表することができなかった。
自己評価・・・「2」

その後、相互評価の結果を参考にしながら、次の時間には「相手の方を見て発表する」をめあてにして、練習を重ねた。

○本発表会 めあて・・・自分の伝えたいことが伝わるよう声の調子や表情を工夫して発表する。
活動・・・全校の児童に呼びかけて、「米っ子広場」を開き“お米の大切さ”を伝えた。
ふり返り・・・たくさんの人が来たので、はずかしくて少し声が小さくなったところもあったが、大部分は、大きな声で声の調子を考えて発表できた。また、相手の方をよく見て、自分の伝えたいことがよく伝えられたと思う。
自己評価・・・「3」

このように、A児は交流会後の相互評価を持つことにより、自分のめあてが客観的に評価され、次の活動では、めあてを明確にして活動に取り組み、その結果、一層の向上を勝ち得ることができた。さらに、本発表会では、より高いめあてをもって意欲的に活動ができたように思われる。

2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動8-①、12-①、13-①の総和で、「思考・判断」については学習活動7-①、12-②、13-②の総和で、「技能・表現」については学習活動8-①、10-①、11-①の総和で、「知識・理解」については学習活動8-①、9-①、12-①の総和で行うことにした。

なお、考察に際しては、評価結果3は80%以上相当、2は60%～79%相当、1は59%以下相当の達成状況としてみなすことにした。

①「関心・意欲・態度」について

| 評価基準 評価規準 | 3 | 2 | 1 | 合計 |
|-------------------------|-----|------|----|------|
| 関心・意欲・態度① (学習活動8-①) | 48人 | 24人 | 0人 | 72人 |
| 関心・意欲・態度① (学習活動12-①) | 30人 | 42人 | 0人 | 72人 |
| 関心・意欲・態度① (学習活動13-①) | 19人 | 53人 | 0人 | 72人 |
| 合 計 | 97人 | 119人 | 0人 | 216人 |

この結果から分かるとおり、追求・まとめ・発展の活動の中で、「関心・意欲・態度」を全体としてみると、「1」の判定の子は一人もおらず、「2」以上の子が全員となった。このことから、評価基準である「お米に関心を持って活動できた」と言え、学習効果があったと言える。

②「思考・判断」について

| 評価基準 評価規準 | 3 | 2 | 1 | 合計 |
|----------------------|------|-----|----|------|
| 思考・判断① (学習活動7-①) | 50人 | 22人 | 0人 | 72人 |
| 思考・判断② (学習活動12-②) | 37人 | 35人 | 0人 | 72人 |
| 思考・判断② (学習活動13-②) | 43人 | 29人 | 0人 | 72人 |
| 合 計 | 130人 | 86人 | 0人 | 216人 |

「思考判断」①の「お米の大切さを伝えるための内容を考えることができる」では、全員が2以上となっている。また、学習活動12と13では、全員が評価「2」以上であり、このため、全員が「食生活の改善点について考えることができた」と言える。

このようなため、思考・判断全体の結果をみても、全員が2以上の達成状況にあり、本単元における思考・判断力の発達は満足すべきものであったと考える。

③「技能・表現」について

| 評価基準 評価規準 | 3 | 2 | 1 | 合計 |
|--------------|---|---|---|----|
|--------------|---|---|---|----|

| | | | | |
|----------------------|-----|------|----|------|
| 技能・表現① (学習活動8-②) | | | | |
| 技能・表現① (学習活動10-①) | 21人 | 51人 | 0人 | 72人 |
| 技能・表現① (学習活動11-①) | 32人 | 38人 | 2人 | 72人 |
| 合計 | 90人 | 124人 | 2人 | 216人 |

学習活動学習活動8-①及び10-①においては、ともに全員が評価2以上の達成状況にある。学習活動11-①においては、評価2以上が70人(97%)である。

このようなため、技能・表現の発達を全体としてみると、計214人(99%)が評価2以上の達成状況にある。十分に満足できる技能・表現の発達を示していると考えられよう。

④「知識・理解」について

| 評価基準 | 3 | 2 | 1 | 合計 |
|----------------------|------|-----|----|------|
| 知識・理解① (学習活動8-①) | 29人 | 42人 | 1人 | 72人 |
| 知識・理解① (学習活動9-①) | 33人 | 39人 | 0人 | 72人 |
| 知識・理解① (学習活動12-①) | 56人 | 16人 | 0人 | 72人 |
| 合計 | 118人 | 97人 | 1人 | 216人 |

学習活動8-①においては、評価2以上が71人(99%)であり、満足できる達成状況にある。また、学習活動9-①及び12-①では、全員が評価2以上の達成状況にある。

このようなため、知識・理解を全体としてみると、評価2以上の達成状況が215人(99.5%)となる。ほぼ全員が「お米の多様な用途やそこに見られる人々の知恵や工夫、苦労に気づくことができた」と考えられ、十分な学習効果があったと判断される。

(2) 単元における個人内評価結果

次に、A児、B児の2名を事例にしなが、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず、2人の児童の<個人評価結果表>を示すと、次のようである。

は、グループのリーダーとして意欲的に活動し、評価結果3となっている。いずれの観点においても、学習活動全体を通じて高い伸びを示している。

B児については、「関心・意欲・態度」については2-2-2-3-2-3-3-2となっている。自分のしたいことがはっきりした学習活動6で「3」になる。学習活動8に入ると調べ方がなかなか決められず「2」になるが、活動を繰り返すことでまた3に回復している。最後の学習活動ではまた、2になっているが、全体を通じての評定はAである。「技能・表現」は、2-3-3-3-3と活動を繰り返すことで3に高まっており、評定もAである。

「知識・理解」は、2-2-2-3と最後の活動で3になっている。ひとつのことをしっかりと調べていたためたくさんことには気づきにくかったと思われ、評定はBとなっている。「思考・判断」も3-2-2-2-2-3と推移し、最後に3になっている。活動中には、なかなか自分の生活をふりかえることが難しかったと思われる。

いずれの観点においても、学習活動の進行につれ次第に向上する（伸びる）特質がみられる。

なお、A児のように高く安定した傾向を示す児童は、学年に12名いた。一方、B児のような傾向を示す児童は、学年に「関心・意欲・態度」では4名、「知識・理解」では12名、「思考・判断」では7名、「技能・表現」では9名いた。